

自分で
触ってこそ
愛車

カー DIY レッスン

現代手法の 傾向と対策

今こそ新規導入
自分でやってみよう!
シミとくすみバスターズ
キズ補修トライアル
接着脱着講座
内装の外し方・戻し方
上級配線テクニック
ガレージング NOW

etc.

クルマ
いじり
ガイ
G
U
Y

POWER CONTROLLER

まとめ：渡辺大輔 写真：前田恵介

パワー／ノーマルの切り替えがワンタッチに！ パワコン次世代モデルの進化を体感

BLITZ Power Con X

価格：2万4200円～

◎ブリッツサポートセンター

☎0422-60-2277 <https://www.blitz.co.jp>

ミニバンだから欲しい ノーマル+の実用パワー

パワーアップを目指したチューニングは、もはやスポーツカーに限定したカスタムではない。というのも、レジャーで活用するミニバンやSUVも、乗車人数が増えたり荷物を積載するとパワー不足に悩まされることが多く、特に高速道路ではその影響も顕著になる。例えば登り坂で速度が低下してしまったり、合流車線ですり抜けたり加速してくれないなんてことはよくあるシチュエーションとも言えるだろう。そこで注目したいのが、ブリッツがこの秋にリニューアルするパワコンの進化版『パワコンX』。ス

ポーツカーはもちろんミニバンやSUVにも対応するカプラーオンチューニングアイテムだ。

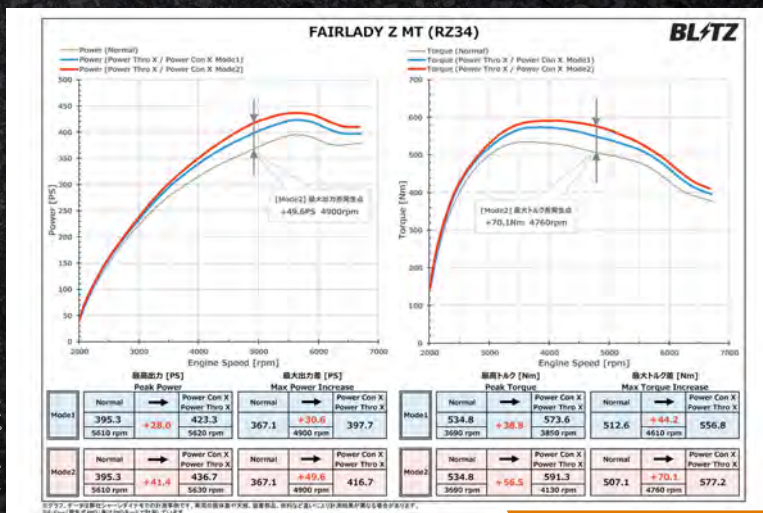
その特徴は旧来通りの完全カプラーオン設計であることが第一。エンジンルームのカプラーを外して割り込ませるだけの簡単設計がキャリーオーバーされているため、ボンネット内で全てが完結される。カプラーで割り込ませたらそのほかの設定作業などは一切必要なく、確実なパワーアップを実現してくれ手軽さは、DIYでも取り付けられるほど。この手軽さをさらにブラッシュアップしたニューモデルでは、本体にモード切り替えスイッチを採用することで実現。これまではノーマルモードを使用する場合にカプラーの抜き差しが必要だったが、こちらのモデルからはスイッチ操作でノーマル復旧が可能になっているというわけだ。

また、パワーアップを実現するモード2に加え、パワコンXではその出力レベルを半分に抑え、燃費とパワーアップの両立を図るモード1も



本体側面に追加されたスイッチが外観的なパウコンXの進化ポイント。このスイッチによってエンジンパワーを自由に切り替えることができるのは画期的。

パウコンXを使用したパワーグラフでは、RZ34フェアレディZにおいてモード1で28ps、モード2で41.4psものパワーアップを実現している。ターボ車のため上り幅はかなり大きく、それに伴い最大トルクも大幅に上昇しているのがわかる。カプラーオンの簡単セットながら、驚くべき効果を発揮しているのだ。



操作性

設定される。ノーマルでは今ひとつ物足りないが、普段使いでは燃費も気になるなんて人にはうってつけのセッティングも採用されているのは見どころと言えるだろう。

実際にステアリングを握ってみると、ノーマルとモード2との違いは一目瞭然。低速域からヴェルファイアの巨体をグイグイと引っ張ってくる感覚は、ノーマルとはまるで別モノ。フル乗車＆荷物満載でもストレスなく走らせられることは間違いないだろう。また、比率を半分に抑えたモード1を



BLITZ SmaThro X
価格：2万4200円～

スロットルコントローラーもスマートにアップデート!

シンプルな機能と取り付けやすさが特徴のスマスロは、ブリッツのスロコンシリーズでも人気のモデル。このスマスロをさらに使いやすくアップデートさせたのが「スマスロX」。新たにロータリースイッチを前面に設け、カプラー側と切り離すことでスマートなインストールを可能にしている。また、ブザー機能を追加することで初期設定や操作時のわかりやすさを向上している。



純正のサービスパネルに対応したスイッチパネルを採用することで、本体だけでなく操作部もスマートな取り付けが可能なのもスマスロが人気を集める秘訣。



ラインアップに関してはスポーツカーからミニバン、SUV、軽自動車に至るまで190車種以上に対応。もちろん車種ごとにセッティングを最適化しているため、クルマにダメージを与えることなく馬力アップを実現してくれることも注目ポイントと言えるだろう。

試してみたところ、こちらでも十分にパワフルさを実感。この変化をスイッチひとつで切り替えられる利便性は、普段の買い物からレジャーまでフル活用したい人必見のアイテムというわけだ。

総評

手軽さと
コスパの良さは
最強レベル

チューニングパーツとして考えると、ターボ車が5万円程度で数十馬力も増強されるというコスパは驚異的。使うシーンに合わせてON/OFFを切り替えられるほか、パワーと燃費のバランスを両立したモードの新設など、ユーザーが求める利便性を追求した進化は満足度も底上げしてくれる。

先進性	★★★★★
機能性	★★★★★
所有欲	★★★★★

